

つくば市の人口分布傾向と 課題分析について

～人口増加の現状から今後に向けて～



つくば市 都市計画部 都市計画課

1.可視化の動機

つくば市型「多極ネットワーク型コンパクトシティ」に向けて現状を把握したい。

人口と面積

- 人口 252,481人（都市建設から一貫して増加中）
- 面積 283.72km（茨城県内で4位）
- 可住地面積 243.37km（市域の86%で茨城県内1位！）

都市計画

- 市街化区域 5,347ha（市域の18.8%）
そのうちの87%を占める、4,633haで市街地整備事業を実施
- 市街化調整区域 23,025ha
- 人口分布の傾向：約15万人が市街化区域に、約10万人が市街化調整区域に居住

- 6町村の合併により「つくば市」ができたため、もともと1点集中の都市構造ではない。
- 市街化調整区域にも集落がたくさん形成されている。
- コンパクトに暮らすのが難しい。
- 都市計画上の課題分析のため、まずは人口分布を確認するところから始めてみることにした。

昨年1年間で
4,533人も増えた！

市域が広くて平らなので
宅地利用しやすい一方...

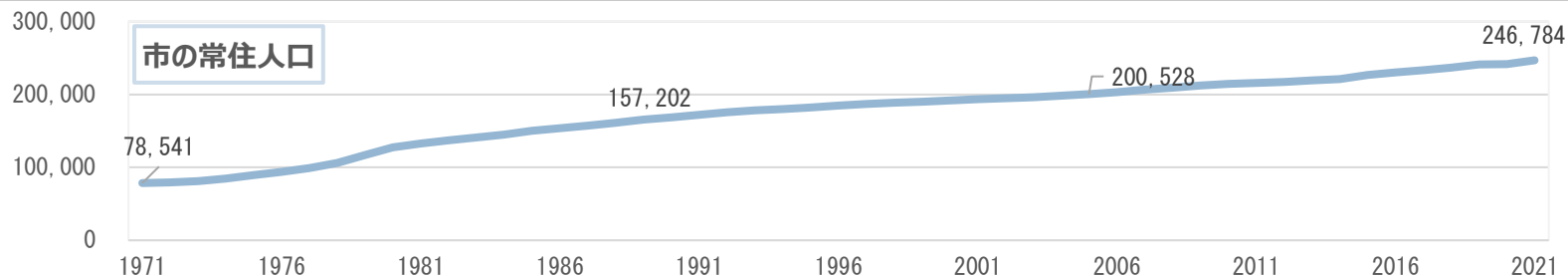
将来都市構造図



つくば市都市計画マスタープラン2015より

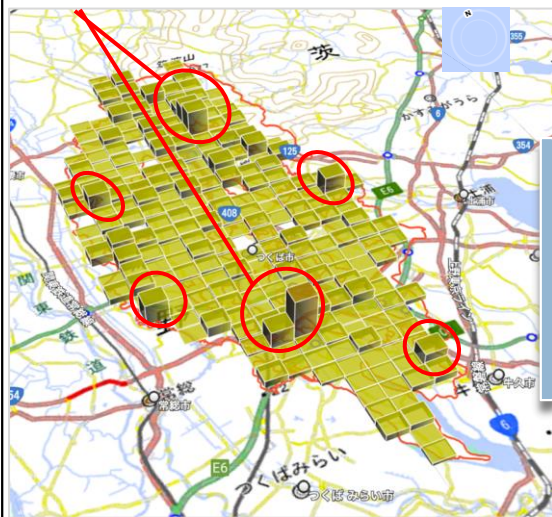
2. つくば市の人口推移（1970～2005年）

つくば市の人口は、筑波研究学園都市建設以来、増加を続けている。



1971年

筑波研究学園都市建設の閣議決定から8年後
合併前の旧町村の中心部などに、小規模な人口集積が見られる



人口：78,541人

1987年

合併によりつくば市誕生
筑波研究学園都市の都市建設が進み、
中心部に人口定着が見られる



人口：157,202人

2005年

つくばエクスプレス開通
筑波研究学園都市概成から25年、
中心部から周辺へと人口定着が広がる



人口：200,528人

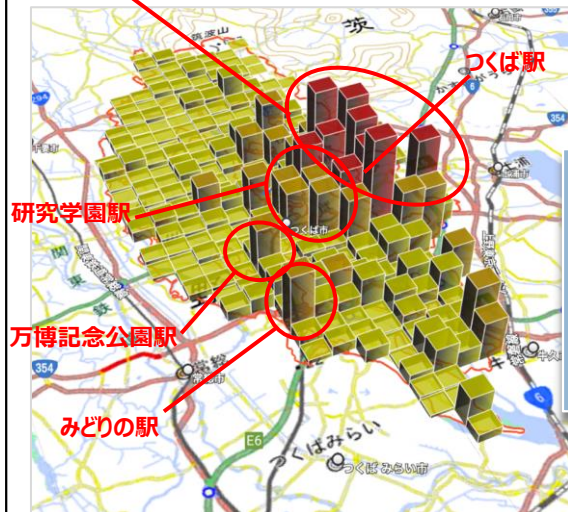
補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

3. つくば市の人口推移と今後の推計・目標（2022～2048年）

現在、市の人口は、すでに将来推計人口を追い越している。

2022年

つくば駅を中心とした研究学園地区に加え、TX沿線の駅周辺にも人口定着が進んでいる。



現在の人口：252,481人

2035年

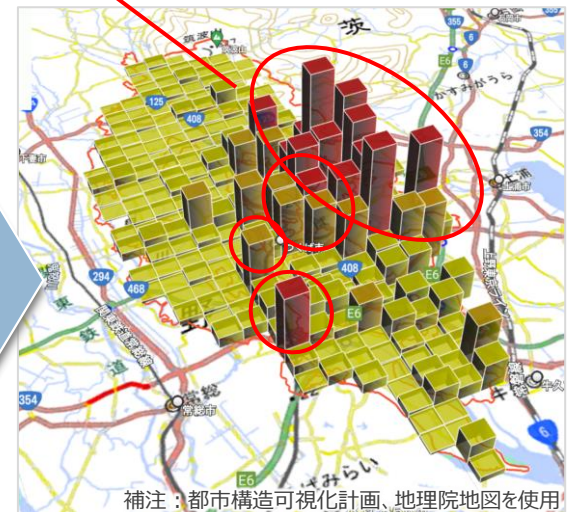
推計上の人口のピークを迎える。つくば駅周辺の国家公務員宿舎跡地の土地利用の進展による人口集積が見込まれる。



将来推計人口※1：251,710人
高齢化率27%（社人研推算）

2048年

ピークアウト後においてもつくば駅周辺を中心に人口を維持。市としても、政策による人口維持を目指している。



将来人口目標※2：約29万人

※1 つくば市都市計画マスタープラン2015より

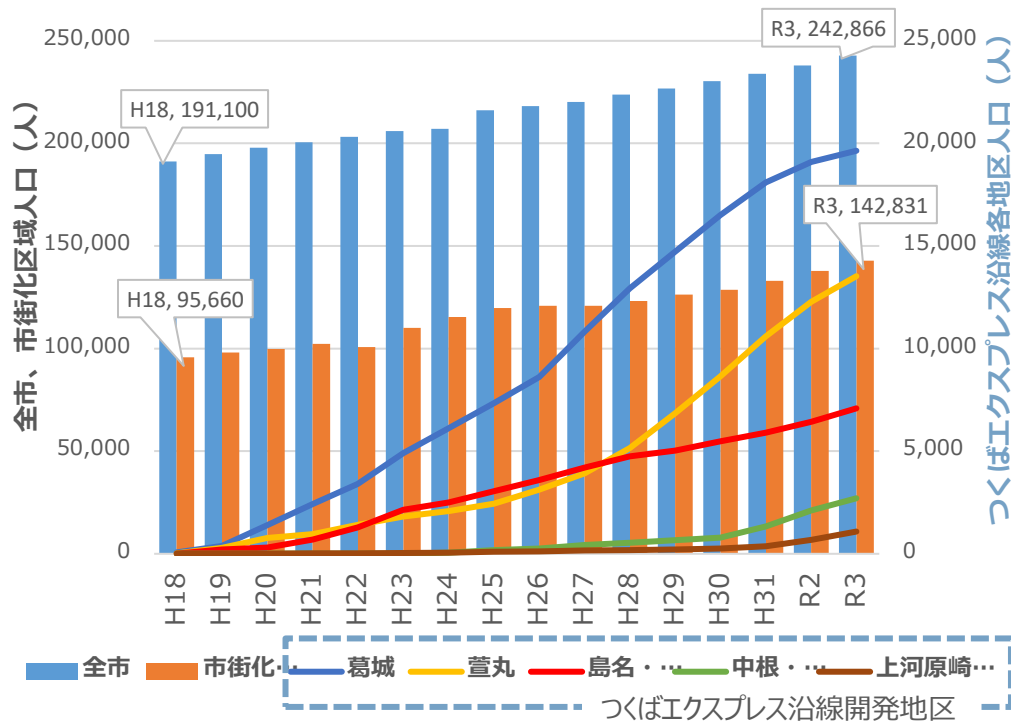
※2 つくば市未来構想（2020年策定）より

4.高齡化の傾向

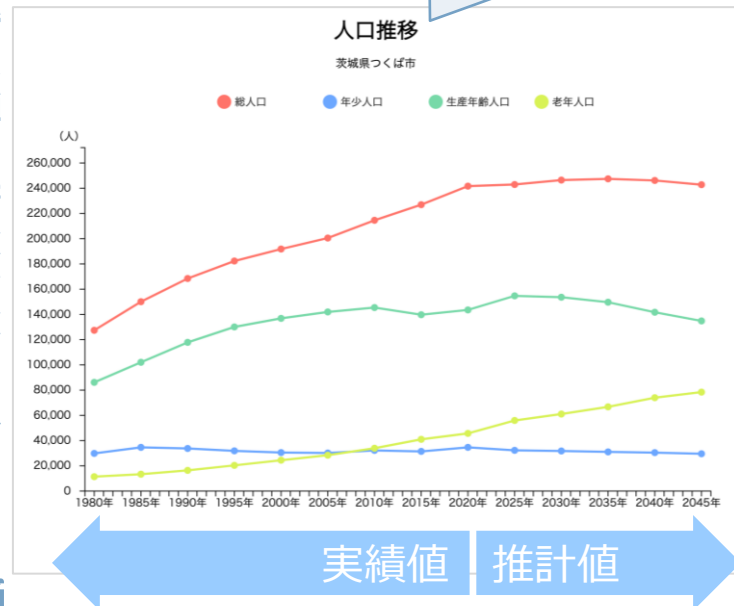
人口増加の主な要因は、つくばエクスプレスの沿線開発。

つくばエクスプレスの沿線開発により、順調に人口増加が続いている。市内5地区で土地区画整理事業を実施し、**計画人口は計8万人**。2002（R4）現在、66%が宅地利用済み。

全市、市街化区域、つくばエクスプレス沿線各地区の人口推移



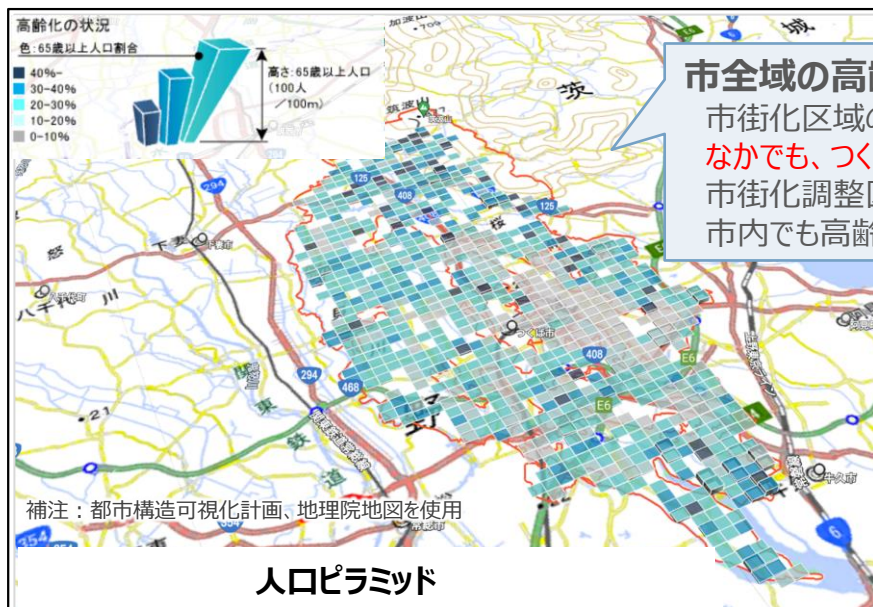
人口構成を見ると、これまで順調に伸びていた生産年齢人口の増加はもうすぐピークアウト。
現在は自然増、社会増ともにプラスで推移しているが、すでに老年人口の増加は進行している。年少人口も今後は減少に向かう中、中長期的な視点を持って市の課題を的確に捉え、対策を打つ必要性が高まる。



RESASより使用

5.高齡化の傾向と公共交通負担率

開発中の地区では驚くべき高齡化率の低さ。でも、将来は・・・



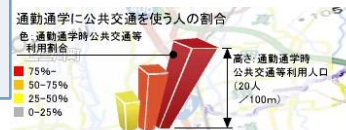
市全域の高齡化率：20.2%

市街化区域の高齡化率：11.0%

なかでも、つくばエクスプレス沿線開発地区では4.5%！

市街化調整区域の高齡化率：31.7%

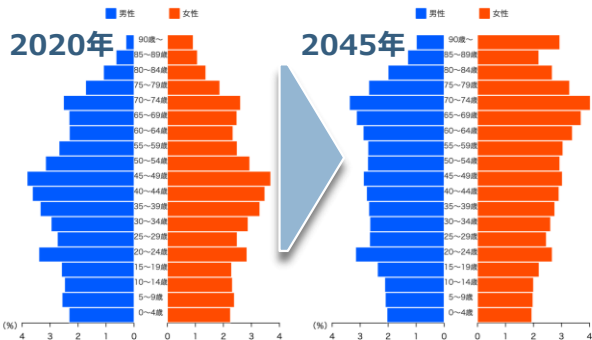
市内でも高齡化の状況は地区ごとに異なる。



補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用



人口ピラミッド



老年人口 (65歳以上)：45,697人 (18.91%)
生産年齢人口 (15歳～64歳)：143,552人 (59.4%)
年少人口 (0歳～14歳)：34,645人 (14.34%)

老年人口 (65歳以上)：78,409人 (32.29%)
生産年齢人口 (15歳～64歳)：134,835人 (55.53%)
年少人口 (0歳～14歳)：29,560人 (12.17%)

現在は鉄道沿線を中心に子育て世代の流入が多く、自然増、社会増ともにプラス。

もともと市内には研究者等のための国家公務員宿舎が多数立地しているため、常に住民が入れ替わる「老化しないまち」という側面も。しかし、時代とともに宿舎も削減されつつあるのが現状。

一方で、自家用車中心の生活実態という課題も・・・

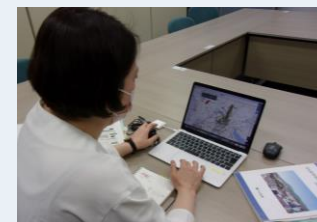
RESASより使用

6. 今後の展望

市の人口分布の傾向等を踏まえ、これからの都市づくりに向けて

今回の成果

- 今回の研修を通して、可視化ツールの基礎的スキルの習得と、有効性の確認をすることができた。



今後考えられる分析パターン

- 区域区分と人口分布→線引きの効果確認、立地適正化計画策定上の課題検証
- 公共交通圏域と人口分布→公共交通空白地帯の洗い出し
- 高齢者人口と各種都市機能の分布→高齢化社会での暮らしやすさの検討
- 高速道路（常磐道・圏央道）等沿線の事業所数や従業員数と区域区分→産業立地動向の把握と線引きの有効性検証

今後の課題

- 可視化ツールを今後も使用していくには、環境整備が必須。
→予算確保が必要。
- 現在、GISを使用できるのはスタンドアロン型端末のみのため、インターネット接続可能な端末の導入が必要。
- 導入済みのArkGISを使いこなすのが先、という考え方も。
- 業務の優先順位と人事異動という現実の前では、スキル習得が後回しになりがち。



つくば市の概要と特徴的な取組み

基礎情報

- ・面積 283.72km² (東西：14.9km 南北：30.4km)
- ・人口 252,481 人 (R4.10.1 常住人口)

1963 (S38)	筑波研究学園都市の建設について閣議了解
1973(S48)	当初線引き及び用途地域の指定
1985(S60)	EXPO'85国際科学技術博覧会開催
1987(S62)	3町1村が合併し「つくば市」誕生 (S63年：筑波町、平成14年：荃崎町を編入)
2005 (H17)	つくばエクスプレス開業 (市内4駅：つくば駅、研究学園駅、万博記念公園駅、みどりの駅)
2016 (H28)	G7茨城・つくば科学技術大臣会合開催
2019 (R1)	G20茨城つくば貿易・デジタル経済大臣会合開催



東京都心と県庁所在地 水戸市の間に位置
成田から40 km、常磐道と圏央道が交差する。
市北部に「関東平野の展望台」筑波山を有する。

特徴的な取組み



つくば市は、2022年3月にスーパーシティ型国家戦略特別区域として指定。住民のつながりを力にして、大胆な規制改革とともに先端的な技術とサービスを社会実装することで科学技術をもって人々に新たな選択肢と示し、多様な幸せをもたらす大学・国研連携型スーパーシティの実現を目指している。

科学のまち

- ・ 国等の研究機関の約1/4に相当する29機関が立地し、約1万人の研究者が働く。
- ・ 官民の研究機関数を合わせると、約150機関が立地し、約2万人が働く。
- ・ 筑波大学をはじめ4大学が立地。
- ・ モビリティロボット実験特区として、全国に先駆けてロボットの公道走行実験を実施。
- ・ 2016年開催のG7、2019年のG20をはじめとして、年間を通してさまざまな国際会議・会合が開催。
- ・ 夏休み期間中に実施される「ちびっこ博士」など、市内研究機関と連携した見学・体験イベントも人気。
- ・ 市内の大学・研究機関等と連携協定を締結し、多分野で協働。